

中学校英語科における特別支援教育の実際

島谷浩（英語教育）・古田弘子（特別支援教育）

本稿では、文部科学省総合的な教師力向上調査研究事業の中で、中学校英語科における特別支援教育の実際について基礎的資料を得るために行った、学校訪問の結果について報告する。

なお、当該生徒のプライバシー保護のために訪問日時、学校名は出さないこととする。

1 学校の概要

- ・P 県 Q 市内郊外の住宅地に位置する。
- ・全校生徒数は 500 人余である。
- ・特別支援学級は「知的障害」と「自閉症・情緒障害」が設置されている。
- ・今回の授業見学にあたっては、「自閉症・情緒障害」学級の担任の 1 人（英語科及び特別支援教育教員免許状所有）のご協力を得た。

2 見学した英語科の授業における特別支援教育について

（1）見学した授業の概要

1 年生・英語

見学日：201X 年 11 月

（2）見学した授業の教員等配置

英語科担当教諭（以下、英担）

「自閉症・情緒障害」学級担当教諭（以下、特担：英語免許状所有）

外国語指導助手（以下、ALT）

（3）教室及び座席配置

1）教室

特別教室であるが、英語の授業はここで行うことが多い（英語用の教室として飾りつけあり）ということであった。電子黒板あり（授業後半に使用）。

2）座席配置

図 1 に、教室の座席及び担当者配置図を示す。

座席替えがときどきある。図 1 の生徒の座席は、見学時の授業時間前の休み時間に行われたものであった。特担によれば前回の授業までは、特別な支援を要する 2 人の生徒は廊下側入りの最前列の通路をはさんだ位置に着席していた。

（4）見学者及び記録者の概要

英語科（島谷浩）

特別支援教育学科（古田弘子）

特別専攻科専修免コース学生 1 名

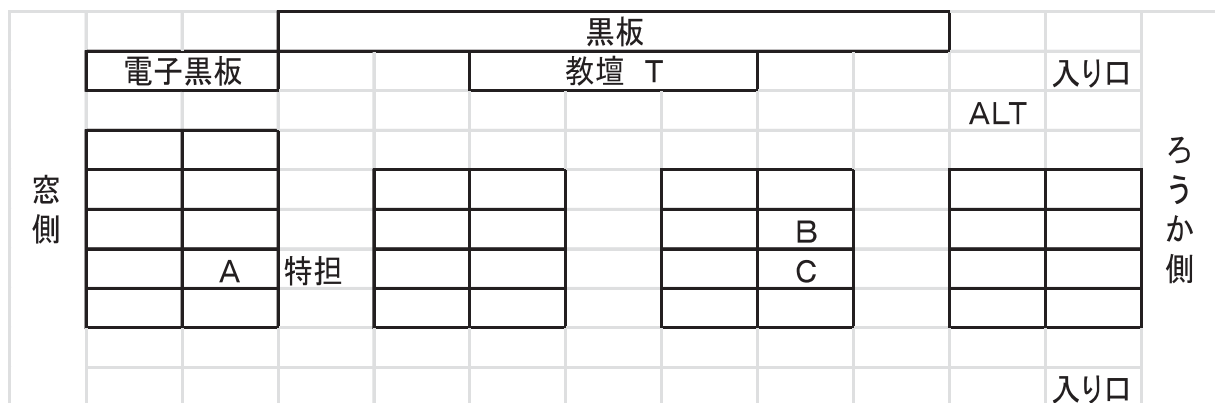


図 1．教室の座席及び担当者配置図

*A、B、C は古田及び特別専攻科学生により支援を要することが観察された男子生徒

(5) 授業の流れ

本クラスには、特別支援学級の生徒 1 名（B 君）が交流で入りともに学んでいる。そのため特担が当該生徒の支援を主目的として入り、他の支援を要する数人の生徒の支援もあわせて行っている。

表 1 に授業の流れを、時間及び授業内容、板書内容の他、英担、ALT、特担の動きに分けて示す。また、支援を実施したと考えられる教職員を記す。

時間	授業内容	板書	英語教員	ALT	特学担任	支援実施者
① 15 分	・ 前時の内容確認。 ・ 本時のプリントの確認。	-Today's point 疑問詞を使った疑問文 -Where 疑問詞 (電子黒板) ・ 教科書ページ提示	・ 黒板左上にカードを掲示。		入室	
		(1)Our School is in Tokyo, Japan. (2)It's sixty years old. (3)We have three hundred and thirty students and twenty teachers.		・ 生徒の机間指導実施。 ・ B 君と C 君に対する指さし指示実施。	・ A 君の隣で中腰で支援。 ・ B 君と C 君の机へも移動して支援。	特担 ALT
	・ 生徒が記入したプリントを回収。					
② 13 分	・ 本時の学習課題提示。		・ 「今から○をやって、▽をやって、◇をやりまます。」	・ 英担の指示で、英文のモデル読みを担当。	・ 手持ちホワイトボードに英担の指示を書いて A 君に提示。*	英担 特担
	・ ALT の読み指導。		机間指導で、C 君への指さし指示。			英担
	・ 個人読み(35秒以内で読めたら挙手)		・ 時間内で読むように促す。	別の生徒の支援。		

	・質問文と回答文を発音。		日本語で質問し、ALTに英語で答えさせる	答えの部分を読む。	A君に対し読んでいる部分の指さし。	特担
	・以上の内容の確認 ・ALTの音声模倣				注意が途切れるA君に対し注意促し。	特担
	・質問の時間		男子生徒から次々に質問。質問に対して即回答。			
10分	・クリスマスソング（リスニング）					
	・クリスマスソング（リスニング）（2回目）			B君への指さし支援。		ALT
	・辞書引き	dash	「辞書出さない」、 「d,a,s,hの意味」を調べるよう指示。		B君へ話かけ。 A君、B君、C君以外にも机間巡視し声かけ。	特担
	・辞書引き	through			他の生徒へ落ち着くよう肩たたき。	特担
	・品詞確認		「品詞は？」			
	・辞書引き	sleigh	「辞書直してください」の指示。			
12分	・教科書電子黒板の自動音声使用		「次に入ります。教科書に入ります」 「隣の人がページあけているか確認して」			英担
	・教科書本文の一斉読み			ALTの本読みのあとに生徒が続けて読む。		
	・教科書本文の個人読み				A君への読んでいる箇所の指さし。	特担
	・電子黒板による音声		「同じスピードで読もう」		A君に電子黒板を見るよう促し。	特担
	・ペア読み				A生徒に文	特担

	・ペア入れ替え読み				章を指さし	
	・電子黒板による音声		教科書を指さしするよう促し		A君に電子黒板を見るよう促し	特担
	・Usuallyの意味と品詞の確認	I usually eat				
	・doの違いについて説明	What <u>do</u> you <u>do</u> after school?		C君を支援		ALT
	・次回の内容の口頭提示		「Howはどのような意味?」「on TVの意味は?」			

*特学教員の携帯ホワイトボード上の板書

- | | |
|---|----------|
| 1 | プリント |
| 2 | クリスマスソング |
| 3 | 読み |

(6) 授業見学から明らかになったこと

- 1) 教職員全員による機会をとらえた支援の実施
英担やALTが、机間指導しながら自然な形で支援を要する生徒に対してさまざまな支援を行っている。
- 2) 見通しをもたせることの重要性
授業開始時、当日の授業の流れを教員が説明したり、次の内容に入ったときにそれを明確に生徒に伝えることで支援を要する生徒のみならず、すべての生徒に授業の展開がわかりやすく伝達されている。

(7) 特別支援学級担当教員への聞き取りから明らかになったこと

- 1) 特別教室の使用について
 - ・英語はいつも同じ特別教室を使うことで、支援を要する生徒が自分の居場所を確認しやすい。また、机の中も使えるため、辞書などが必要な時に取り出せて、机上に必要な物だけを出して学習できる。これらは、支援を要する生徒にとってわかりやすい学習環境となる。
- 2) 特別な支援を要する生徒について
 - ・特別支援学級のB君は認知スタイルが聴覚優位であるため英語は比較的得意であり、この授業では特段の支援を必要としない。
 - ・一方A君は、特別支援学級を体験中である。集中の持続が困難で、学習を常に見守りながら支援をする必要がある。
 - ・特担によれば、C君は支援を要するというよりは、配慮を要する生徒としてとらえられる。
- 3) 英語担当教員による配慮
 - ・わかりやすい板書
 - ・色分けでキーポイントの提示
 - ・ワークシートに答えをつけて渡す等の配慮を行っている。また、

- ・宿題のプリントに、手がかりつきのものを配布することで、英語学習の遅れがちな生徒への配慮を行っている。
 - ・(特担の考え) 英語の学習達成度が高い生徒向けのプリントもあわせて作成し、生徒自らが選べるようにするという方法が本来のぞましい(Differentiated Instruction)。
- 4) 特別支援学級の生徒が交流で入るときに授業で配慮している点
- ・授業進行上の配慮 生徒があきないように教材や提示のスピードを工夫する。
 - ・席の配置への配慮 支援を要する生徒の隣に、自然な形で支援ができる生徒を配置(ピアチュータリング)。
- 5) 英語担当教員と特別支援学級の連携のあり方
- ・次の英語の授業の内容をあらかじめ確認し、特別支援学級での学習時間に関連する課題を学習する等の連携を行っている。
 - ・授業中に気になった点等について、特別支援学級担任が英語担当教員に指摘したり、提案することがある。
- 6) 英語科でつまずきやすい事柄：アルファベットと音声の結びつけ
- ・特別支援を要する生徒には、アルファベットと音声の結びつけという導入部分でつまずく生徒が多い。これに対し、ローマ字の導入、フォニックスの活用を行うこともある。英語科としての指導方法開発が求められる領域である。

3 まとめ：英語科教育教員養成における特別支援教育の導入に向けて

障害を持った子どもたちは、母語でのコミュニケーションを行う際の能力が不足している場合が多い。しかし、英語などでは積極性を示すケースがあるという。英語は規則性のあるイントネーションで構成され、リズムカルで、また限られた語彙でもコミュニケーションが可能であるからだと考えられている(江利川, 2012)。

今回授業を見学させていただいた英語担当教員は、支援を要する生徒に対して特別に配慮した授業はしていないと語った。その言葉に最初驚いたが、実際に授業を細かく検討すると、2の(6)、(7)で示したように、英語担当教員やALTは、自然な形でさまざまな支援を行っていた。席替えについても、半年以上、最前列に置いていた生徒を、普通に配置することができる時期になったと判断したものと思われる。実際には、支援をしてくれそうな生徒を周辺に配置するなど、特別な配慮がなされていた。

外国語活動の中では、ピクチャーカードや写真、実物などを多用することで、視覚的に訴えて児童の関心・意欲を高めることが多いが、障害を持つ子どもの中には聴覚が発達している子どもがいるため、そうした特性を生かした指導・支援が有効である。発達障害やダウン症児には方略的能力に優れている子どもが多く、少ない語彙でも、自分の思いを身振り手振りで表現することができるそうである。英語のような語彙が限られた活動では、母語でのコミュニケーションのようなハンデを背負うことなく活動できるため、これらの児童・生徒からコミュニケーションに対する積極性をより引き出すことができる可能性がある。

参考文献

江利川春雄 2012「特別支援教育と英語教育」『希望の英語教育へ(江利川研究室ブログ)』
http://blogs.yahoo.co.jp/gibson_erich_man/29812433.html (2015年1月8日閲覧)

養護教諭養成教育における特別支援教育 —養護専門科目「養護概論」等の取り組みの概要—

養護教諭養成課程 松田芳子

1. 本課程の養護教諭養成目的

養護教諭は、学校教育法で規定されている「養護を掌る」教育職員であり、学校教育におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育と健康管理によって子どもの発育・発達への支援を行っている。

近年、子どもを取り巻く社会環境や生活様式などの急激な変化は、子どもの心身の健康に様々な影響を及ぼしている。生活習慣の乱れ、いじめや不登校などの心の健康問題、アレルギー疾患、性に関する問題や薬物乱用、児童虐待の増加など子どもの健康問題は多様化しており、現代的な健康課題の解決に向けて、養護教諭への期待が高まっている。また、感染症への対策や、自然災害、学校管理下での事故・災害等の安全管理上の問題、事故後の心のケア等養護教諭が関わる緊急的・危機管理的対応、慢性疾患、軽度発達障がいなどの特別な教育ニーズを必要とする子どもへの対応能力が養護教諭に求められている。このような状況の中、平成20年の中央教育審議会答申をうけ平成21年に学校保健安全法が施行され、養護教諭には、より一層学校保健活動推進の中核的役割を担う役割や、学校内外の関係者との連携を推進するコーディネーターとしての役割を担うことが求められている。

本課程では、このような様々な教育課題、健康課題の多様化に対応できる専門的知識を有し、児童生徒の心身の健康管理能力、健康教育力を備えた養護教諭を養成することを目的とする。また、学校保健活動のセンター的役割を果たす保健室経営を行い、学校内外の関係者や関係機関との連携を推進するコーディネート能力を有し、学校保健活動推進の中核的な役割を担う養護実践力を備えた養護教諭を養成するものである。

2. 養護教諭と特別支援教育

平成19年に特殊教育から特別支援教育に名称変更され、発達障害のある児童生徒への支援体制も整備されつつある。平成19年の学校教育法の改正によって小中学校等においては、学習障害（LD）・注意欠陥多動性障害（ADHD）等を含む発達障害のある児童生徒等に対して適切な教育を行うことが示され、一人ひとりに合わせた対応が求められるようになった。文部科学省が平成24年度に実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果では、通常学級に在籍し、発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒は約6.5%（小学校7.7%、中学校4.0%）であることが報告されている。また、平成25年文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」では特別支援教育は共生社会に向けたインクルーシブ教育システム構築に向けて必要不可欠なものであるとされ、医療、保健、福祉、労働等との連携を強化し、社会全体の様々な機能を活用して、十分な教育が受けられるよう、障害のある子どもの教育の充実を図ること、教職員の研修等の充実、当面必要な環境整備の実施などの重要性が示された。

各学校においても特別支援教育コーディネーターを校務分掌として設置し、校内支援体制のもと、それぞれの教員がそれぞれの役割を果たすことが求められている。一人ひとりに合わせた対応をするためには組織的な支援が必要であり、なかでも子どもの健康管理を担う養護教諭がチームの一員として関わることは重要であると考えられる。

全国養護教諭連絡協議会が平成24年に各校種別(特別支援学校は除く)に約20%の会員を対象として抽出した「養護教諭の職務に関する調査」¹⁾によると、特別支援を必要とする園児・児童・生徒がいる学校は、幼稚園94%、小学校96%、中学校94.1%、高等学校73.2%であった。特別な支援が必要な園児・児童・生徒の状態で最も多いのは、全体では「広汎性発達障害またはその疑い」68.9%であり、次いで「注意欠陥多動性障害またはその疑い」55.8%、「学習障害またはその疑い」41.9%の順であった。特別支援が必要な園児・児童・生徒に養護教諭としてどのようにかかわっているかについては、全体では「校内の支援チームの一員になっている」70.1%が最も多く、次いで「問題行動(パニック等)」を起こした時の対応」64.3%、「担任や教職員からの相談への対応」55.9%の順であった。高等学校では、「関係機関との連絡・調整」が43.4%で他の校種に比べて高率であるという報告がなされている。

養護教諭は、児童生徒の心身の健康管理を担う立場から、全校の児童生徒一人ひとりの健康課題を把握しやすい。以上のことから養護教諭が特別支援教育において果たす役割は重要なものと考えられる。

養護教諭養成教育における特別支援教育について、養護専門科目「養護概論」等の取り組みの概要を以下に紹介する。

3. 養護教諭養成教育における特別支援教育に関する教育内容(概要)

1) 平成26年度 養護専門科目2年次後期「養護概論Ⅲ」(選択2単位)における授業内容

(1) テーマ: 第11回「学校種別による養護教諭の執務の特徴」90分 1コマ

授業担当者 松田芳子

※参考文献及び資料

四訂 養護概説(ぎょうせい)²⁾、改訂 保健室経営マニュアル(ぎょうせい)³⁾

新版・養護教諭執務のてびき第9版(東山書房)⁴⁾、パワーポイントのスライド

【授業の概要】

- ①校種の特性と児童生徒の特徴や課題
 - ・心身の発育・発達・健康・安全・学習指導体制及び教育活動
- ②小学校における具体的執務の特徴
 - ア.保健管理 イ保健教育 ウ組織活動
- ③中学校・高等学校における具体的執務の特徴>
 - ア保健管理 イ保健教育 ウ組織活動
- ④特別支援学校における執務の留意事項>
 - ア保健管理 イ保健教育 ウ組織活動

(2) テーマ: 第12回「特別支援教育と養護教諭のかかわり」90分 1コマ

【授業の概要】

- ①インクルーシブ教育システムについて
- ②特別支援教育の現状
- ③発達障害のある児童生徒への対応
- ④特別支援教育と養護教諭の関わり
- ⑤特別なニーズのある児童生徒の健康相談(活動)のポイント
- ⑥発達障害のある児童生徒とは

⑦発達障害の特徴と養護教諭の執務上の配慮

ア.救急処置

イ.健康観察

ウ.健康診断

エ.学校行事

オ.家庭との関わり

カ.その他の配慮事項

※パワーポイントスライドを抜粋

発達障害のある児童生徒への対応

- ・子どもの実態の把握
- ・校内委員会の設置
- ・特別支援教育コーディネーターの指名
- ・個別の支援計画、個別の指導計画の作成
- ・関係機関との連携



発達障害のある児童生徒に対する組織的な支援

※本資料は、文部科学省「発達障害のある児童生徒への対応」に基づいて作成されています。

●発達障がいの特徴と養護教諭の職務上の配慮

ア：緊急対応

- ・不安感の軽減のため、どのような対応をするのが事前に説明する
- ・表情を見せるなど視覚的に説明する
- ・本人のこだわりなどの特性に合わせて、対応を必要としないような場合でも何らかの対応をして本人が納得できるようにする

イ：校内外行事

- ・校外活動の際に注意を促す
- ・気になる点があれば早急担任から報告するようにお願いしている

※「私立小学校における特別支援教育の体制整備の現状と見通し」全国私立小学校養護教諭・特別支援教諭調査会から、平成28年より

●発達障がいの特徴と養護教諭の職務上の配慮

ウ：健康診断

- ・事前にどのような検査が実施されるかを説明しておく
- ・検査の受け方の説明では様子を見せたり、他の人の検査の様子を見せたりするなど視覚的に理解しやすいようにする
- ・検査の順番を変更する、時間等をずらすなど工夫する
- ・事前に校医とその児童生徒の特性について共通理解を図る
- ・事前に保護者と健康診断を受けるにあたっての配慮事項を確認する



●発達障がいの特徴と養護教諭の職務上の配慮

エ：学校行事

- ・下見の際に写真を取り、事前に児童生徒に見せる
- ・校外準備、運営行事などは予定された日程を全てこなせなくても、これとこれはするということを児童生徒と話し合う
- ・バリエーションになった児童生徒の対応を図る
- ・服装管理
- ・事前に保護者と学校行事本部にあたっての配慮事項を確認する
- ・事前に早急担任と学校行事本部にあたっての配慮事項を確認する



●発達障がいの特徴と養護教諭の職務上の配慮

オ：家庭との関わり

- ・保護者調査票等の資料を活用し、発達障がいのある児童生徒が学校生活を送る上で配慮が必要なことに対し話し合いの機会を設ける
- ・保護者から阻害や危害、発達障がいに対する思いを聞く
- ・発達障がいのある児童生徒の希望の仕度や生活リズムを気にかけるようにする



●発達障害の特徴と養護教諭の職務上の配慮

カ：その他

- ・肯定文を用いる、抽象的な言葉は用いないなど指導の仕方を工夫する
- ・「どうしたいの？」ではなく「保健室に行く？教室に行く？」など2択が3択で選べる
- ・クールダウンの場として保健室を提供している
- ・児童生徒の良い面を認め、褒め、自己肯定感が高まるように声かけをする
- ・個々の児童生徒の特性に応じた対応をしている



2) 熊本大学附属特別支援学校における教育実習（4 年次前期）

本課程では、中学校教諭・高等学校教諭一種免許状（保健）取得のための教育実習を附属特別支援学校において、4 年次前期 4 月中旬から 5 月中旬にかけて、前班約 15 名、後班約 15 名に分かれ、各 10 日間ずつの教育実習を実施している

教育実習のねらいは、次の通りである。

○知的障害教育の実際について総合的な認識を持ち、特別支援学校における養護教諭や教師の役割を体験的、具体的に学ぶ。

○教育実践にかかわる問題解決と研究態度を養う。

小学部、中学部、高等部の各クラスに実習生 1～2 名の配当により、指導教員のもと教師の役割を学んでいる。また、養護教諭による講話や保健行事等の体験により、特別支援学校における養護教諭の役割を学んでいる。

実習中、配当クラスにおいて児童生徒の「日常生活の指導」の研究授業を各自 1 単位時間実施させていただいている。個別のニーズに応じた本時の個人目標や手立てを学習指導案に計画し、教材研究、教材作成、授業実施、授業研究会による振り返りの一連の過程を通して、個別のニーズに応じた学習指導について、指導のポイントや工夫点、配慮事項等について詳細なご指導をいただいている。

小学部、中学部、高等部の「日常生活の指導」の題材名の例は表 1 の通りである。

表 1 附属特別支援学校の教育実習における「日常生活の指導」題材名例

	題材名
小学部 1 組	「はみがき名人になろう」
小学部 2 組	「めざせ！はみがき名人」
小学部 3 組	「キラキラした自分になろう」
中学部 1 年	「汗ふき戦隊！すっきりレンジャーになろう」
中学部 2 年	「歯みがきマスターになろう！」
中学部 3 年	「上手に洗顔をしよう」
高等部 1 年	「汗ふき名人になろう」
高等部 2 年	「上手にうがいをしよう」
高等部 3 年	「いきいき！素敵な社会人を目指して」 ～バランスよく食事をとろう～

「日常生活の指導」の題材は、養護教諭が行う保健指導の内容そのものであり、個々の特性に応じた保健指導のあり方について学ぶ貴重な機会となっている。

3) 教育学研究科学校教育実践専攻養護教育専修の授業における取り組み

（1）保健科教育教材開発:大学院 1 年後期

授業科目の内容：学校現場で使用している教材の問題点、改良点を考え、または、未開発の教材を思考し、より効率的にしかも理解しやすい教材を考え、試作する。

【教材開発の事例：保護者を対象とした養護教諭による講話のパワーポイントスライドの教材開発】

平成 26 年度の保健科教育教材開発において、大学院生 1 名が、発達障がいのある児童に対する早期支援の必要性の理解、発達障がいの理解を促すことを目的とし、希望する保護者を対象とした養護教諭の講話のパワーポイントスライド教材（15 分程度）を作成した。

（2）保健科教育課題研究:大学院 1 年次

研究テーマ「発達障害がある児童への養護教諭の支援」

学生：大学院 1 年 指導教員：松田芳子

平成 26 年 11 月より、熊本県内公立小学校に協力いただき、インターンシップ生として実際に学校現場へ赴き、発達障害がある児童への養護教諭の支援について参与観察を行っている。子どもの持つ特性、支援における養護教諭の具体的な配慮事項や工夫点、支援における課題について観察記録をとり、また自ら児童にかかわる体験を通して研究を進めている。

5. 今後の課題

養護専門科目の「養護概論」の授業等において、養護教諭と特別支援教育のかかわりについて授業内容とし、4 年次の附属特別支援学校の教育実習を通して特別支援教育について学びを深めている。養護専門科目の「養護概論」の授業における教育内容の授業評価が不十分のため、今後、学生の授業評価を工夫していきたい。

文献

- 1) 全国養護教諭連絡協議会：瑞星 第 8 号，125-129，2013.
- 2) 三木とみ子編集代表：四訂 養護概説，ぎょうせい，2009.
- 3) 三木とみ子編集代表：改訂 保健室経営マニュアル，ぎょうせい，2013.
- 4) 植田誠治・河田史宝監修：新版・養護教諭執務のてびき 第 9 版，東山書房，2014.

V 発達障害関係 書籍リスト

発達障害の理解や発達障害を持った児童生徒に関わっていく上で参考になる書籍を、熊大附属特別支援学校長 高原明子先生にご紹介いただきました。なお、本リストに掲載された書籍の一部は、学部で購入しご利用いただけるようにしております。

シリーズ・わたしの体験記 わが子は発達障害

一心に響く 33 編の子育て物語―

著者名：内山登紀夫・明石洋子・高山恵子（編）

出版社：ミネルヴァ書房（2014/7/15） ￥2,000

『ADHD の子どもたち』

著者名：岩波英巳（編著） 齊藤万比古・市川宏伸・本城秀次（監修）

出版社：合同出版（2014/6/30） ￥1,500

『うちの火星人』

著者名：平岡禎之

出版社：株式会社 光文社（2014/4/20） ￥1,500

『子どもから大人への発達精神医学』

著者名：本田秀夫

出版社：金剛出版（2013/10/30） ￥3,200

算数の天才なのに計算ができない男の子のはなし 算数障害を知ってますか？

バーバラ エシャム（著）、品川 裕香（訳）

岩崎書店（2013/5/15） ￥1,600

特別支援教育 ―多様なニーズへの挑戦―

拓殖 雅義（著）

中公新書（2013/5/25） ￥880

アスペルガー症候群のある子どものための新キャリア教育

―小・中学生のいま、家庭と学校でできること

本田 秀夫 ・ 日戸 由刈（著）

金子書房（2013/4/12） ￥1900

教師と子どもの「困った」を「笑顔」に変える本

―発達障害のある子と上手につき合う―

樋口 一宗（著）

東洋館出版社（2013/3/7） ￥1980

発達障害の子どもを二次障害から守る！ あったか絆づくり

—問題行動を防ぐ！ ほめ方・しかり方、かかわり方—

岩佐 嘉彦 ・ 松久 眞実（著）

明治図書出版（2012/12/14） ￥1,900

思春期・青年期の発達障害者が「自分らしく生きる」ための支援

小島道生・田中真理・井澤信三・田中敦士（編著）

金子書房（2013/01/29） ￥1,800

発達障害のある子への最適サポート&ツール2

〔ソーシャルスキル・運動・行動〕個々のニーズに応じた指導と教材・教具

山岡 修 ・ 柘植 雅義 （編著）

小貫 悟 ・ 辻 薫 ・ 武蔵 博文 （編集協力）

明治図書出版（2012/1/09） ￥2,560

アメリカの I E P（個別の教育プログラム）

—障害のある子ども・親・学校・行政をつなぐツール—

ピーター・ライト、パメラ・ライト、サンドラ・オコナー（著）

柘植雅義、緒方明子、佐藤克敏（監訳）

中央法規出版（2012/12/20） ￥2,800

学生相談と発達障害

高石恭子・岩田淳子（編著）

学苑社（2012/5/25） ￥2,100

発達障害の臨床的理解と支援2 幼児期の理解と支援

—早期発見と早期からの支援のために—

石井哲夫（監修） 清水康夫・本田秀夫（著）

金子書房（2012/2/25） ￥3,000

自閉症のある子と友だちになるには —当事者だからわかるつきあい方イラストブック—

ダニエル・ステファンスキー（著） 石井哲夫（監修） 上田勢子（訳）

晶文社（2011/11/30） ￥950

発達障害・不登校のための新しい学びの場 2010

田口教育研究所（編）

株式会社日本評論社（2011/11/30） ￥1,800

発達障害への看護アプローチ

杉山登志郎（責任編集）

精神看護出版（2010/02/25） ￥2,400

通常学級の特別支援セカンドステージ ―6つの提言と実践のアイデア 50―

佐藤 慎二 (著)

日本文化科学社 (2011/12/25) ¥1,800

お母さんのための児童精神医学 ―子どものこころの脳科学―

根来秀樹 著

日本評論社 (2011/01/25) ¥1,600

臨床現場で使える思春期心理療法の治療計画

アーサー・E・ヨングスマ・ジュニア、L・マーク・ピーターソン、ウィリアム・P・マキニス 著、

田中康雄 監修、西川美樹 訳

明石書店 (2010/12/10) ¥5,500

教室の中の気質と学級づくり

―縦断研究から見えてきた個のの違いの理解と対応―

バーバラ・K・キョウコ 著 柘植雅義 秋田喜代美 訳

金子書房 (2010/11/25) ¥2,400

つなげよう ―発達障害のある子どもたちとともに私ができること―

田中康雄著

金剛出版 (2010/11/20) ¥2,800

Q & A 大学生のアスペルガー症候群 ―理解と支援を進めるためのガイドブック―

福田真也 著

明石書店 (2010/06/10) ¥2,000

写真で教えるソーシャル・スキル・アルバム<青年期編>

―自閉症のある人に教えるコミュニケーション、交友関係、学校、職場での対応―

ジェド・ベイカー著 門 眞一郎・佐々木欣子訳

明石書店 (2010/07/31) ¥2,000

学校や家庭で教えるソーシャルスキル実践トレーニングバイブル

―子どもの行動を変えるための指導プログラムガイド―

ミッジ・オダーマン・モウギー, ジョー・C・ディロン, デニス・プラット著

竹田契一監修 西岡有香訳

明石書店 (2010/10/15) ¥2,800

漂流する発達障害の若者たち ―開かれたセーフティーネット社会を―

高森明 著

ぶどう社 (2010/08/10) ¥1,700

教育ジャーナル選書 特別支援教育はじめてのいっぽ!

算数のじかん—通常学級でみんなと一緒に学べる

井上 賞子 杉本 陽子 (著)

学研教育みらい (2010/04) ¥3000 (CO-ROM 付)

発達障害の治療法がよくわかる本(健康ライブラリーイラスト版)

宮尾益知 監修

講談社(2010/03/10) ¥1,200

自閉症スペクトラムと問題行動 視覚的支援による解決

リンダ・A・ホジダン著、門 眞一郎、長倉いのり訳

星和書店 (2009/09/25) ¥3,800

子どもの発達障害と情緒障害(健康ライブラリー イラスト版)

杉山 登志郎監修

講談社 (2009/08) ¥1,200

キレやすい子へのソーシャルスキル教育 教室でできるワーク集と実践例

本田 恵子著

ほんの森出版 ¥2,200

軽度発達障害 繋がりあって生きる

田中康雄著

金剛出版 ¥3,800

発達障害のある子どものきょうだいたち —大人へのステップと支援—

吉川かおり著

生活書院 ¥1,365

家族・支援者のための発達障害サポートマニュアル

古荘純一著

河出書房新社 ¥2,500

きみもきつとうまくいく 改訂版

—子どものための ADHD ワークブック—

キャスリーン・ナドー , エレン・ディクソン , ふじわら ひろこ (イラスト)

東京書籍 ¥1,100

発達障害の子どもたちのための生活ガイド —DVD ブック ドクターC&エルウッドくんと
ADHDについて学ぼう! —

サミュエル R.カーロン / 山内 あけみ (翻訳)

文芸社 ¥2,000

高機能自閉症—誕生から就職まで—

内藤 様子

ぶどう社 ¥1,800

アスペルガー症候群(高機能自閉症)の子どもを育てる本 学校編 (健康ライブラリー)

佐々木 正美 (監修)

講談社 ¥1,200

〈特別支援教育書籍リスト (国立特殊教育総合研究所作成 ジアース教育新社刊行のもの)〉

特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック

平成23年1月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 B5判 278頁

諸ツールを収録した CD-ROM 付 2,310 ジアース教育新社

障害のある子どもの教育相談マニュアル —はじめて教育相談を担当する人のために—

※障害のある子どもの教育相談マニュアル Ver.1『初めての教育相談』、Ver.2『地域を支える教育相談』を合本しています。

平成22年7月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 B5判

118頁 1,575 ジアース教育新社

学校コンサルテーションブック その3

特別支援教育を推進するための 地域サポートブック —実践から学ぶ—

平成22年3月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 A4判

154頁 1,680 ジアース教育新社

特別支援教育の基礎・基本

一人一人のニーズに応じた教育の推進

平成21年9月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 A4判

356頁 2,835 ジアース教育新社

発達障害支援グランドデザインの提案

発達障害を理解し、社会全体で支え、共に生きるために

平成21年6月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 A4判

284頁 2,835 ジアース教育新社

自閉症教育実践マスターブック キーポイントが未来をひらく

平成20年2月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 B5判

128頁 1,890 ジアース教育新社

学校コンサルテーションを進めるためのガイドブック

ーコンサルタント必携ー

平成19年11月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 B5判

88頁 1,365 ジアース教育新社

学校コンサルテーションケースブック

ー実践事例から学ぶー

平成19年11月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 B5判

130頁 1,575 ジアース教育新社

発達障害のある学生支援ケースブック

ー支援の実際とポイントー

平成19年9月 独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 B5判

130頁 1,575 ジアース教育新社

『自閉症教育実践ケースブック』 より確かな指導の追究

平成17年10月 独立行政法人

国立特殊教育総合研究所 B5

168頁 1,500 ジアース教育新社

『発達障害のある学生支援ガイドブック』 確かな学びと充実した生活をめざして

平成17年5月 独立行政法人

国立特殊教育総合研究所 B5

98頁 1,400 ジアース教育新社

特別な支援を必要とする児童生徒への指導法の検討
ー各学科・課程からのアプローチー

2015 年 3 月 20 日 発行

編集発行 熊本大学教育学部

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 40-1

印刷所 株式会社かもめ印刷

〒861-2403 阿蘇郡西原村字布田化粧塚 384-55

